

## 第46回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日時：令和6年1月29日（月） 10：00～12：00

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

### 1. 東電エンジニアリング状況について

東京電力から、1号機 PCV 内部調査（気中部調査）、1・3号機 PCV（S/C）水位低下に向けた取り組み、2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の準備状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

#### 1号機 PCV 内部調査（気中部調査）について

- 実機環境とモックアップ環境ではどうしても違いが出てしまうので、その点をよく考えた上で検討を進めることが望ましい。
- モックアップによる練習を重ねたとしても故障が生じる場合も考えられるため、そのような場合に対応できるよう予備機を準備しておくことが重要である。

#### 1・3号機 PCV（S/C）水位低下に向けた取り組みについて

- 福島第一原子力発電所構内でのウラン分析は現時点では困難とのことだが、S/C 内包水中のウラン濃度を把握することが燃料デブリの化学形態の推測に役立つと思われることから、今後、ウラン分析についても検討していくことが重要である。
- 3号機 S/C 内滞留ガスをパージする際、滞留ガスに微量に含まれるクリプトンが空気よりも重いことから、その差異を踏まえた上でガスパージ計画を策定することが重要である。

#### 2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の準備状況

- PCV 内部において取り出し装置と干渉しそうな障害物については、取り出し作業時に地震が発生した場合でも干渉しないよう、なるべく広い範囲で撤去することが望ましい。

### 2. 次年度廃炉研究開発計画（案）について

NDF から次年度廃炉研究開発計画（案）について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- PCV・RPV の内部状況が分からないとデブリ取り出し工法の中で決められないことも出てくるため、必要な内部調査や、内部調査技術の研究開発を優先的に進めることが重要である。
- デブリ取り出し工法の検討については様々な問題がリンクしているので、適宜情報や考え方を集約（リンク）し、また、全体的な見地から研究開発の成果等を踏まえて次の検討をすると言った、段階的な、かつ、インタラクティブな進め方で検討することが重要である。

以上